

7/24 使徒の働き 15章 1-11節「主イエスの恵みによって救われる」

小池 宏明 牧師

アンティオキア教会は異邦人のキリスト者が多い教会になった。すると、ユダヤ人のキリスト者の中から、キリスト信仰と共に割礼を受けることも救いのためには必要条件だ、と訴える人々が出てきた。ユダヤ人は世代を超えて代々、割礼を受けて、神の民の仲間入りをしてきた歴史があるので、割礼が必要だと主張する人々が出ててもやむを得ない。この事に関して、激しい対立と論争が起きた。そこで、本部の教会があるエルサレムに行って話し合うことになった。

*御霊による話し合いで解決

紀元後 49 年頃、歴史的なエルサレム教会会議が開催された。人は信仰によって救われるのか、それとも行いによって救われるのかが問題となった。解決の方法は多数決ではなく、三位一体の神様がどのように語り、どのように行動をして下さったのか、そのことを聴くこと、視ることが大切なのだ。

エルサレム教会のペテロが自分の経験を語った。それは、異邦人のローマ兵コルネリウスの救いに関わった体験があるからだ。(10 章) 15 章 7-9 節「兄弟たち。ご存じのとおり、神は以前にあなたがたの中から私をお選びになり、異邦人が私の口から福音のことばを聞いて信じるようにされました。そして、人の心をご存じである神は、私たちに与えられたのと同じように、異邦人にも聖霊を与えて、彼らのために証しをされました。私たちと彼らの間に何の差別もつけず、彼らの心を信仰によってきよめてくださったのです。」この発言によって、神様のご計画が明らかになった。例えば異邦人でも福音を聞いて信じるなら聖霊が与えられてきよめられるのだ。割礼は救いのための条件ではないことが明らかに示された。

*恵みによる救い

私たち人間は、誰であっても、どこの国民であっても、どんな民族であっても、主イエス様の恵みによって救われる。主はその恵みを信頼する私たちに与えようとしておられる。私たちは、心を開いて、主イエス様の招きに応えて、受け入れるだけで神との和解、すなわち救われるのだ。例えば、私たちが、礼拝献金や什一（月定）献金などをお献げするのは、救われるための条件ではない。救い出された感謝の表れ、救い出して下さった主イエス様にお従いして生きる献身のしるしとしてお献げするのだ。「感謝と献身」のしるしとしての献げものなのだ。私たちは宗教改革によって明らかになった「信仰義認」の真理に生きる群れであり続けたい。